

本日の議題

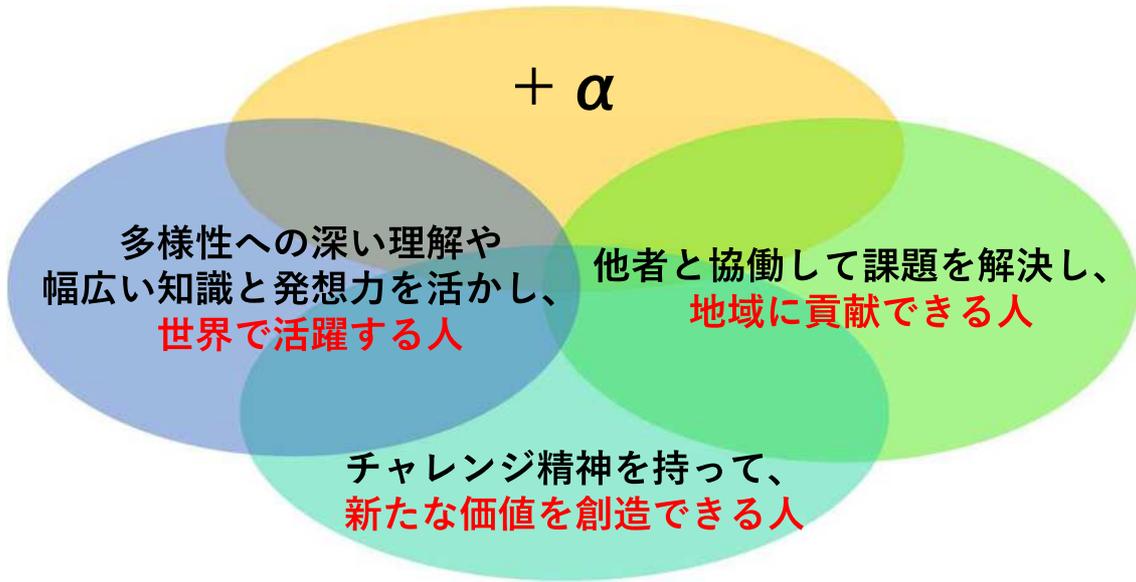
1. 市立高校が育てたい人材像
2. アンケート結果
3. 大学等・企業・地域との連携 及び
小中高の連携
4. 重視すべき教育



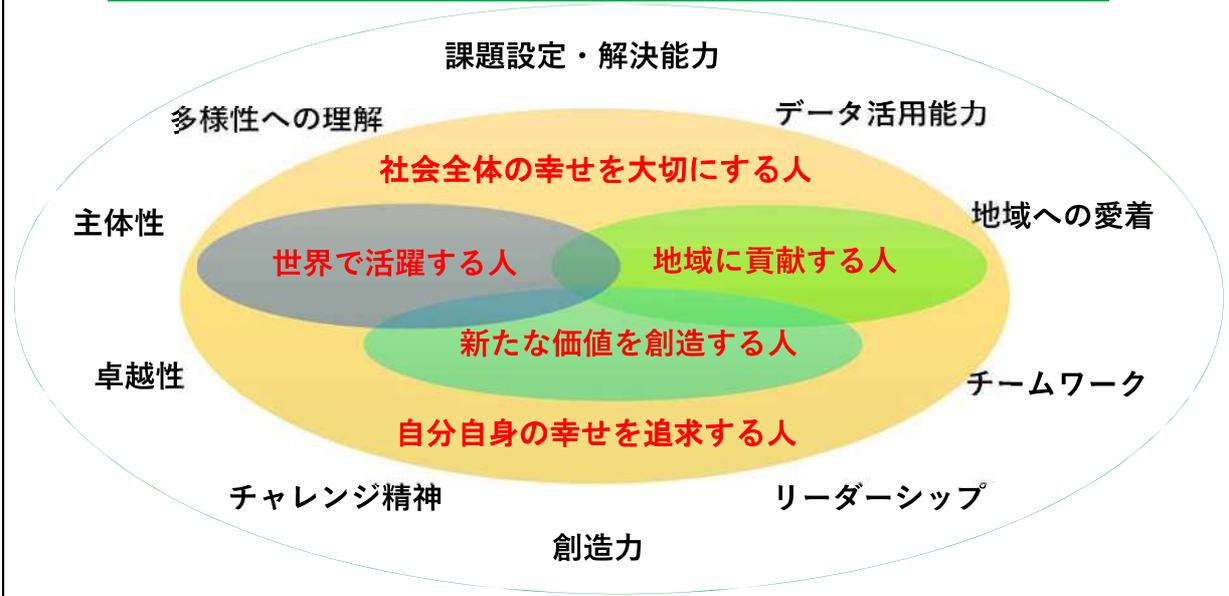
1. 市立高校が育てたい人材像
2. アンケート結果
3. 大学等・企業・地域との連携 及び
小中校の連携
4. 重視すべき教育



(1) 市立高校が育てたい人材像



(2) 市立高校が育てたい人材像



1. 市立高校が育てたい人材像
2. アンケート結果
3. 大学等・企業・地域との連携 及び
小中高の連携
4. 重視すべき教育



2. アンケート結果

回答者

- ・市立高校（全日制）の生徒 3,292名（回答率約66%）
- ・市立中学校3年生の生徒 6,973名（回答率約63%）
- ・市立高校の教員 315名（回答率約58%）

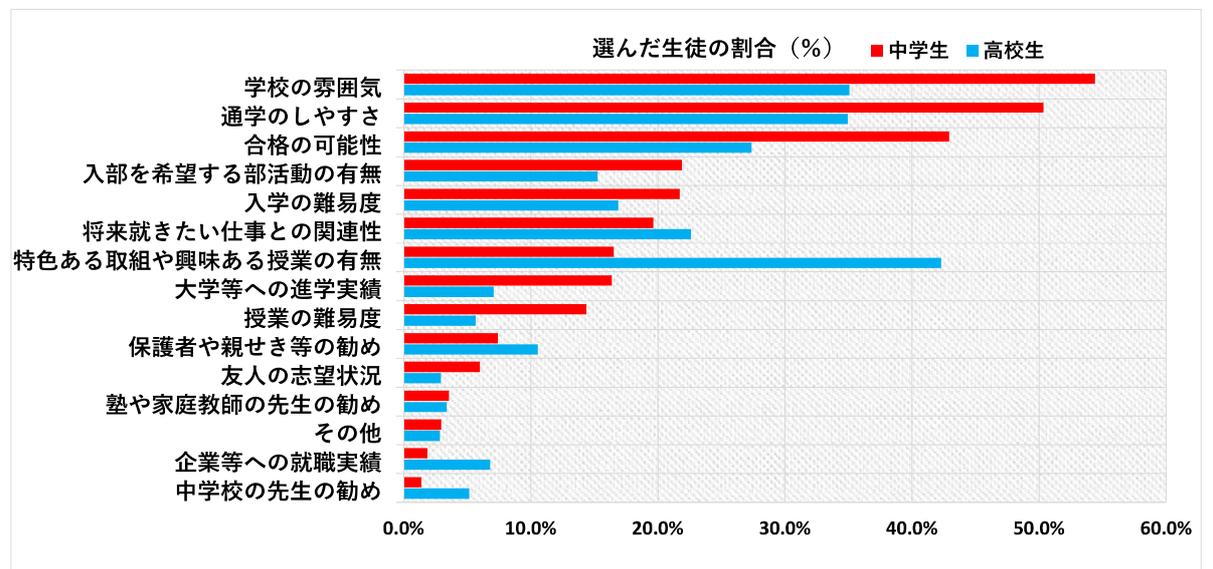
回答期間

- ・生徒 5月13日（月）～5月31日（金）
- ・教員 5月13日（月）～5月23日（木）



中学生 高校生

(1) 進路決定に際し重視する／したもの (3つまで)



中学生 高校生

(2) 進路決定に際し重視する／したもの (3つまで)

| | 市立中学生 | 市立高校生 |
|---|---------------|------------------|
| 1 | 学校の雰囲気 | 特色ある取組や興味ある授業の有無 |
| 2 | 通学のしやすさ | 学校の雰囲気 |
| 3 | 合格の可能性 | 通学のしやすさ |
| 4 | 入部を希望する部活動の有無 | 合格の可能性 |
| 5 | 入学の難易度 | 将来就きたい仕事との関連性 |

<考察>

- ・市立中高生は、通学の利便性や学校の雰囲気を重視して、進路を決定している。
- ・市立高校生は、在籍校の特色ある取組や授業について理解したうえで入学している。
- ・市立中学生は、5月の段階では学力に見合った進学先を選ぶ傾向がある。



(3) 在籍校をより良くするための提案

【主な意見】

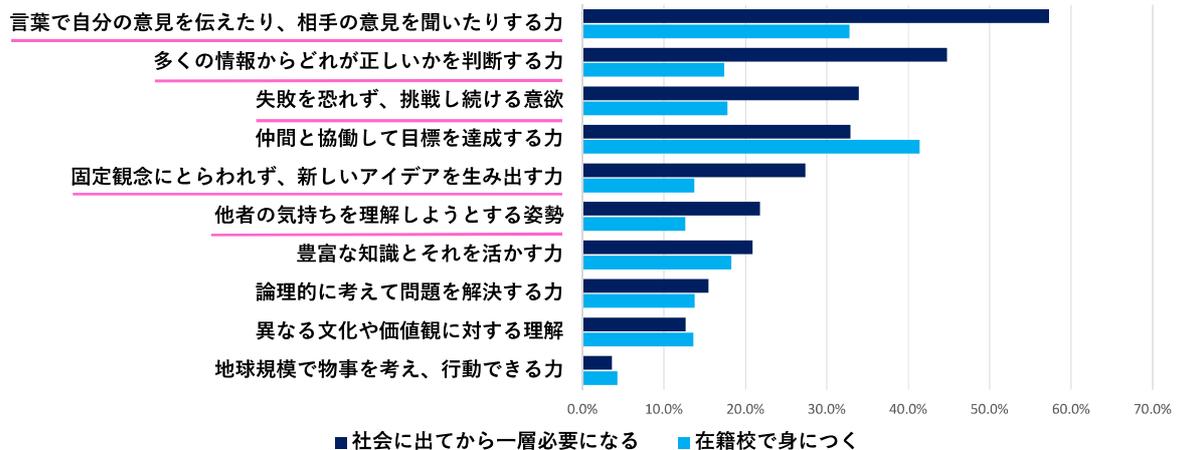
- ・もっと**フィールドワークの頻度を多くして**より特色ある内容（職場体験や見学等）にしてほしい。
- ・今以上に**校外の活動**を増やしてほしい。**いろいろな企業や学校との共同活動**を行っていろいろな経験を得られるようにしてほしい。
- ・学校全体での**ボランティア活動**
- ・もう少し私生活に余裕の出るカリキュラムで、生徒自身が**学びたいことを学べる時間**が必要だと思います。
- ・**時間がかかる課題は授業内で**行えるようにしてほしい。

<考察>

- ・市立高校生は、ゆとりある中で、自主的に学習に取り組みたいと考えている。
- ・市立高校生は、学校外を含めて多様な他者と学ぶ機会を求めている。

(4) 必要な力 (3つまで)

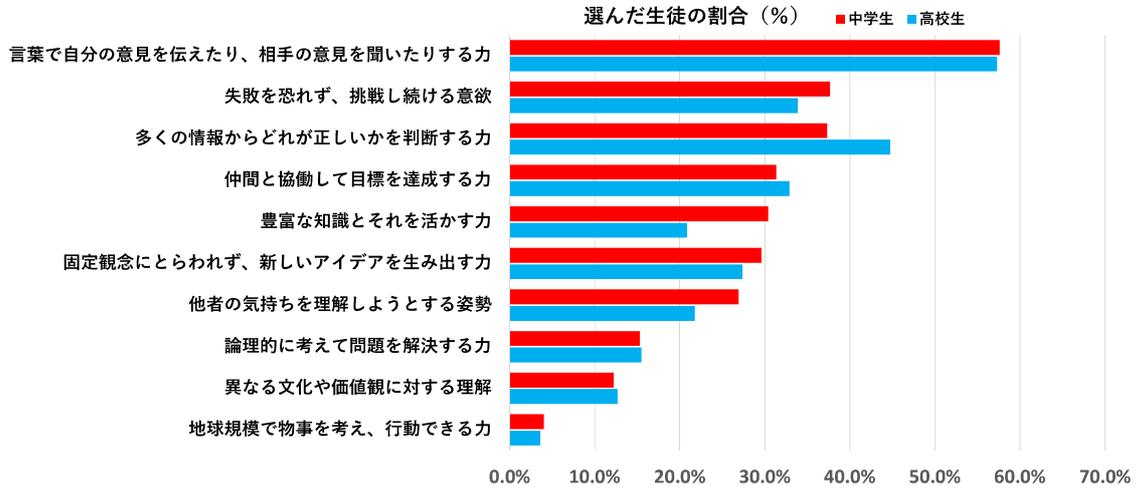
選んだ生徒の割合 (%)



下線のは特にギャップが大きく、考慮して検討を進める必要がある。

中学生 高校生

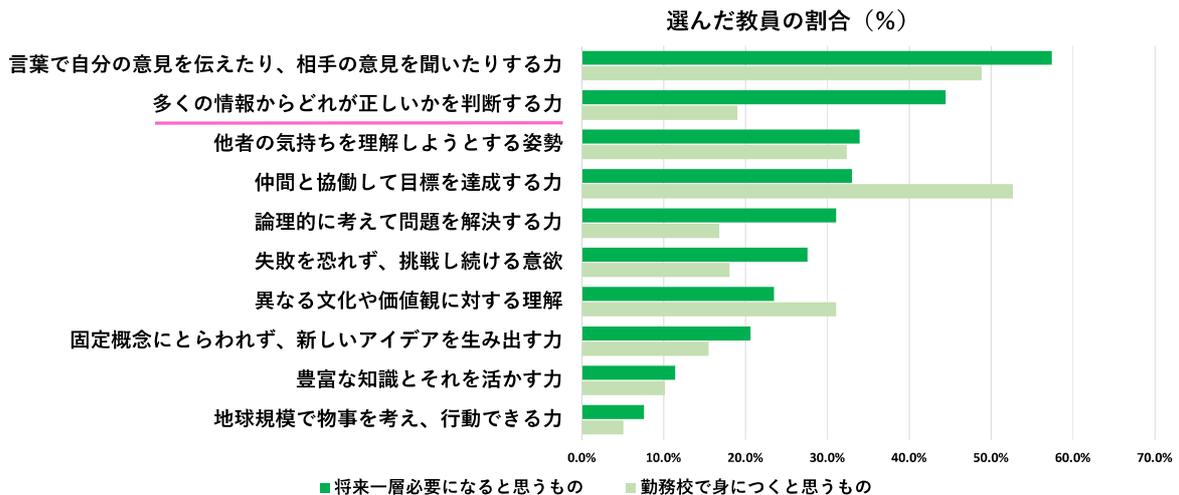
(5) 社会に出て必要になる力 (3つまで)



市立中高生ともにコミュニケーション能力の重要性を認識している。

教員

(6) 必要な力 (3つまで)



教員は、情報リテラシーの重要性を感じているが、現状は十分に取組めていない認識である。

(7) 必要な力 (社会に出てから必要になると思うもの)

| 順位 | 市立中学生 | 市立高校生 | 教員 |
|----|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 | 言葉で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする力 | 言葉で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする力 | 言葉で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする力 |
| 2 | 失敗を恐れず、挑戦し続ける意欲 | 多くの情報からどれが正しいかを判断する力 | 多くの情報からどれが正しいかを判断する力 |
| 3 | 多くの情報からどれが正しいかを判断する力 | 失敗を恐れず、挑戦し続ける意欲 | 他者の気持ちを理解しようとする姿勢 |
| 4 | 仲間と協働して目標を達成する力 | 仲間と協働して目標を達成する力 | 仲間と協働して目標を達成する力 |
| 5 | 豊富な知識とそれを生かす力 | 固定観念にとらわれず、新しいアイデアを生み出す力 | 論理的に考えて問題を解決する力 |

<考察>

- ・三者が共通して、コミュニケーション力を最も重要視している。
- ・さまざまな情報に触れることが多く、正しい情報を判断する力が重要だと考えている。
- ・市立中高生は、チャレンジ精神を重視している一方で、教員は共感的な理解を重視している。

(8) 必要な力 (在籍校で身につくと思うもの)

| 順位 | 市立高校生 | 教員 |
|----|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 | 仲間と協働して目標を達成する力 | 仲間と協働して目標を達成する力 |
| 2 | 言葉で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする力 | 言葉で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする力 |
| 3 | 豊富な知識とそれを活かす力 | 他者の気持ちを理解しようとする姿勢 |
| 4 | 失敗を恐れず、挑戦し続ける意欲 | 異なる文化や価値観に対する理解 |
| 5 | 多くの情報からどれが正しいかを判断する力 | 多くの情報からどれが正しいかを判断する力 |

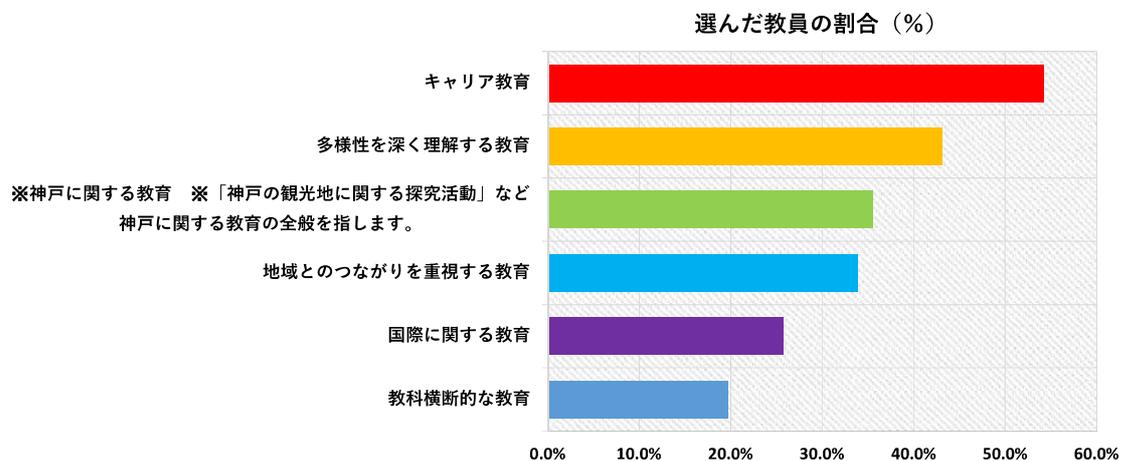
<考察>

- ・対話的な授業や学校行事、部活動を通して、他者と協働する活動が重要視されている。
- ・教育活動の中で、コミュニケーション能力の育成が図られている。
- ・市立高校生は、受験勉強や専門教科での学習を通して、新たに学ぶことが多いと感じている。

教員

(回答者個人ではなく、学校としての取組に対して)

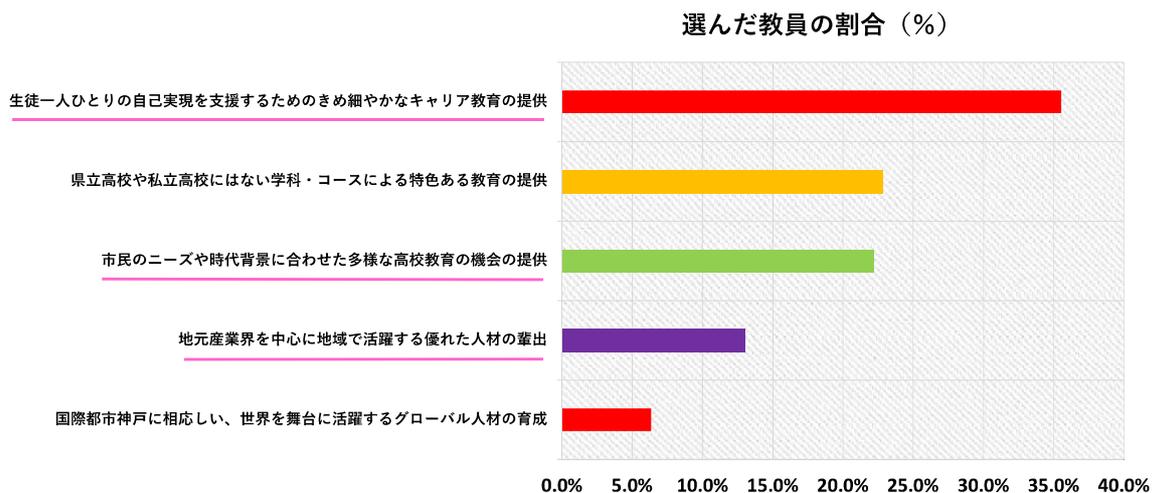
(9) 勤務校で特に力をいれているもの (3つまで)



学科 (普通科・総合学科・専門学科) にかかわらず、キャリア教育に対する意識が高まっている

教員

(10) 市立高校の役割として最も求められるもの



市立高校には、生徒や地域・市民目線に立った教育の提供をするべきだと考える教員が多い。

(11) 市立高校が提供すべき 「神戸ならではの特色ある教育」として思い浮かべるもの

【主な意見】

- ・地域の資源を活かした**専門性の高い知識や技術（スポーツ・工業・商業・語学）**の修得
- ・企業や大学等の**外部機関との連携によるキャリア教育**
- ・グローバルな視点で、**多様な文化・価値観を理解し協働する人を育成**する教育
- ・小中高の**校種間の連携**と、国際都市神戸に根差した**地域連携**
- ・商店街などの地域活性化を目指した**地域連携**教育
- ・兵庫県立の高校では実現が難しい、**中高一貫**の国際的で自由な中等教育
- ・国際都市神戸に相応しい**SDGs教育**
- ・神戸の文化・観光資源について学び、**新しいアイデアとともに世界に発信できる力**を育む教育
- ・海外の学校や神戸市に住む**在日外国人の方々との交流を通じた国際理解**教育

大学等・企業・地域との連携 及び 小中高の連携に関する意見が多い。

1. 市立高校が育てたい人材像
2. アンケート結果
3. **大学等・企業・地域との連携 及び 小中高の連携**
4. 重視すべき教育



大学等・企業・地域との連携事例①

1. 大学等連携

神戸市外大：模擬国連事業への支援、課題研究への支援（葺合）

「学内教育実習プログラム」講義（須磨翔風）

神戸大学：臨海実習（六甲アイランド）

神戸高専：プログラミング集中講義（科学技術）

神戸松蔭女子学院大学：幼児教育や小学校教員を目指す生徒への講義（須磨翔風）

2. 企業連携

コベルコ建機株式会社：講演会「重機業界のDX」（科学技術）

白鶴酒造：アルコール発酵の仕組みと社会との繋がりを学ぶ（六甲アイランド）

他多数

大学等・企業・地域との連携事例②

3. 官公庁との連携

明石市立天文科学館：天体観測の手法や天体現象を学ぶ（六甲アイランド）

神戸市経済観光局&スカイリンクテクノロジーズ(株)：DX講演会（科学技術）

JICA関西：ワークショップ及び研究員や海外協力隊員との交流（葺合）

兵庫図書館：インターンシップ（神港橋）

4. 地域連携

洋菓子店ボックスン：高校生が考案したオリジナルケーキの販売（須磨翔風）

ホテル北野プラザ六甲荘：地域課題の研究やインターンシップ（神港橋）

神姫観光（株）：高校生が立案したバスツアーの企画・販売（神港橋）

他多数

小中高の連携事例

- サイエンスコンテスト：中高生が科学分野での交流を図ることを通して、科学好きの裾野を広げる（六甲アイランド・中学校）
- 保育・小学校実習：教育科の学校設定科目「教育入門・体験」において、小学校等で実習を行っている（須磨翔風）
- ミニ講義：国際科の選択科目「アジア地域研究」において、生徒が学習した内容を小学校6年生に教えている（葺合）

中高一貫教育

○中高一貫校の特長○

1. 子どもと保護者の選択肢が広がる

従来の中学校・高等学校の制度を選択するか、中高一貫教育を選択するかは、子どもや保護者の考え方によるが、いずれをも選択できる機会が提供されることは望ましい。

2. 学校は、特例を活かした独自の教育課程を編成できる

独自の教育課程を編成することにより、6年間一貫したキャリア教育、フィールドワークや実験などの体験的な学習、教科横断型の探究的な学習、海外語学研修などを実施しやすい。

3. 生徒は、ゆとりをもって学習に取り組む、キャリア開発に取り組む

高校受験に時間を費やすことなく、興味ある分野を突き詰めて勉強することもできるし、スポーツや文化活動等に打ち込むこともできる。

学校行事や部活動などで高校生の先輩と関わる中で、先輩の姿を通して自分の将来について考える機会となる。また、先輩が受験や就職に向けて取り組む姿を見て、早い時期から自己のキャリアについて考えることができる。

【参考】札幌市立札幌開成中等教育学校

○スクールミッション

6年間の連続した国際バカロレア（IB）の教育プログラムの活用による課題探究的な学習を生かして主体性を育み、国際的な視野で将来の日本を支え、活躍できる人材を育成する学びの場

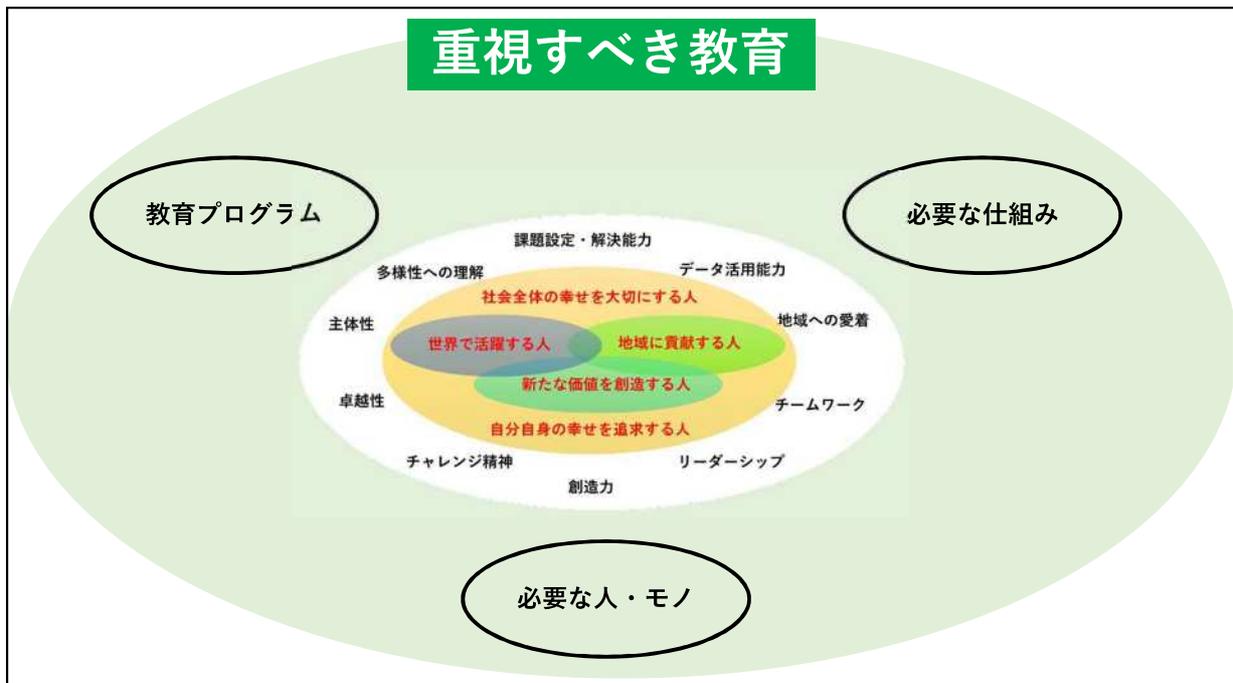
○教育実践のキーワード

・ 6年間一貫教育 ・ 探究 ・ IB ・ 地域連携 ・ SSH ・ キャリア教育

○特徴

- ・ 授業一コマが100分で、IBの学習サイクル「探究－行動－振り返り」に基づいて、全ての授業で課題探究的な学習に取り組んでいる。
- ・ 1～4年生全員が対象であるIBのミドルイヤーズプログラム（MYP）を重視し、全ての教育活動を展開している。
- ・ 教科教室型の校舎のため、生徒は授業毎に教科専用の教室に移動して授業を受ける。
- ・ 課題研究で取り組んだ探究テーマと進路の連動が見られるなど、自己実現に向けて主体的に取り組む生徒が多い。
- ・ 在学期間に留学をする生徒や、海外大学に進学する生徒が年々増えている。

1. 市立高校が育てたい人材像
2. アンケート結果
3. 大学等・企業・地域との連携 及び
小中高の連携
4. **重視すべき教育**



第4回 有識者会議について

日時 : 令和6年8月中旬～下旬 (予定)

内容 : 市立高校の未来像 (案)

